

令和6年度 学校関係者評価報告書

専門学校ファッションカレッジ桜丘は「夢の創造」・「文化の創造」を提供し続けるエクセレント・カレッジ(excellent college)を目指すことを標ぼうし、夢を創造し、文化を創造することが、ファッションを教授する服飾系高等教育機関の基本と考える。

専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価の結果に関して客観性と透明性を高めるとともに、学外の有識者から専門的助言を受け、外部評価を得ることを目的として学校関係者評価を実施しましたので報告致します。

1、実施年月日 令和7年3月31日

実施校 専門学校ファッションカレッジ桜丘

2、学校関係者評価委員

小野芳行（元YKK株式会社）

椎野伝一（有限会社丸伝代表取締役 流通総合コンサルタント）

西室充子（卒業生 日本ファッションクリエイター協会）

学校関係者

関 太（校長）

岩寄達弥（事務長）

菊池伊都子（教務部長）

3、評価方法

令和6年度 専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価報告書に対する
学校関係者評価

4、評価項目

- (1) 教育理念・目的・人材育成
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学習成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の募集と受入れ
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

令和6年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準1. 教育理念・目的・人材育成

桜丘学園は豊かな人間性を身につける「人間教育」を重視している。いかに多くの専門的な知識を身につけても、人間的な魅力が無ければ職業人として大成することは叶わない。人間的な魅力を高めるにはいかに多くの友人を作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係が醸成され相互に人間的な魅力が高まると思う。学生数が増えたことにより、以前より対人ストレスを感じる学生や教員とのコミュニケーション頻度に不満を持つ学生が増加したように思われる。学期初めの面談より学生個々の特性を把握して、学生満足度を向上させるようきめ細やかに対応した。

基準1. 教育理念・目的・人材育成に関してご意見をお聞かせください。

※学園の「教育理念」は不変であるが、社会の変化や環境の変化などへ鋭敏に対応し、桜丘学園が更なる高みを目指し「人間教育」を重視した教育を通し専門知識を有する人間教育の実践を図るべき。生徒数の増加に伴い生じた課題についても、生徒個々人の特性を把握して、対応を図っているとのこと、これらの対応には生徒は元より教員・職員の多大なる努力・対応があつてこそと思慮される。

※留学生が多い環境の中より一層のコミュニケーション強化こそが肝要である。対人コミュニケーションを円滑に行うためのスキルを持ってもらえるような、授業を一年次のカリキュラムに加えたかどうか。現状の教職員は複雑化した学生たちが直面する現代のコミュニケーションにおける、問題を解決する処方箋を持ち得ないのではないのでしょうか。その分野でのプロの採用が必要と思われます。校内にメンタルカウンセラーを置くことも有効ではないかと思われる。親や担任や教師に相談できない悩みや課題を気軽に聴いてくれる場所があることは、日々の学校生活のセイフティネット足りうと考える。

基準2. 学校運営

服飾専門学校への進学者が減少する中、ファッション専門課程の在校生数は大幅に増員することができた。またデジタル専門課程の留学生は過去最高の入学者を確保し、収支の黒字化に貢献した。資産運用は生成AI効果により米国市場が堅調に推移し、保有金融資産の上昇による運用益により、黒字化を確実なものとした。令和7年度の学生募集はファッション専門課程、デジタル専門課程ともに本年度を若干下回るが、総在校生数が伸びるため教育事業単独での黒字化実現が視野に入る範囲になった。

基準2. 学校運営に関してご意見をお聞かせください。

※学園関係者の尽力により、生徒数の増加が図れたとのこと。生徒数の安定した増加は事業基盤の根幹を成すものであり、IT関連を含めた対応が結実してきたものと推察する。これら対応力の維持・強化を図り、今後も安定した事業基盤の継続を図って欲し

い。健全な事業運営を図るためには、資産運用益に頼ることなく、安定した生徒確保による本業での安定した事業基盤の維持・強化を目指して頂きたい。

※大幅に学生数が伸びたことで、より優秀な学生を選抜する条件が整ったと思う。
次の段階として選抜のハードルを上げることで、本来専門学校に課せられている業界への人材供給においてより優秀な即戦力を送り続けることが可能になる。ひいては業績が好調な企業への就職率も向上し、学校のブランド価値も上がるという好循環に至るのではないだろうか。

基準３．教育活動

ファッション専門課程ファッションクリエイト科は、昨年同様教員２名体制で臨み、学生に対してきめ細やかな対応に努めた。また、マーチャンダイジングの授業を取り入れることにより、企業でのより実践的なブランドの構築手法、計画性、計数管理など学ぶことができた。選択授業のアイドルプロデュース衣装製作も２年目を迎え、進行スケジュールにも慣れより充実した製作内容になった。デジタル専門課程の留学生は、全般的に日本語の読み書き、会話能力が低く、授業の進行の遅れや、学生間の理解度の差により学級運営に若干の苦労があった。今後の課題としてクラスの学生数、能力別クラス運営の導入等の課題が見えたので、対応を検討する。

基準３．教育活動に関してご意見をお聞かせください。

※生徒数が増加したこと学園運営には喜ばしい事である。反面留学生の増加も多い事と推察され、一層の密なるコミュニケーション、能力別クラス運営の導入・運用を是非推進して頂きたい。老婆心ながら、能力別クラスの対応には十二分に注意を払い導入・運用に努めて頂きたい。

※ファッションビジネス科のレベルアップが今後の課題。現状では店舗の販売員への門戸でしかなく、将来の店長、バイヤー、マーチャンダイザーなどのより高度な職種へのモチベーションを与えられていないと思われる。経済や経営などの分野のカリキュラムも必要。

基準４．学修成果

学習成果の可視化の一環として実施している各種検定受験推進は継続している。ファッションクリエイト科が受験するパターンメイキング検定３級、１年生は合格率８８％、２年生は全員合格した。１年生の検定に対する前向きな姿勢は継続している。２級は技術科の３年生１名が受験し合格。ファッションビジネス科の１年生のファッション販売能力検定３級は合格率６８％、昨年８６％から大幅に低下。２年生の２級は合格率５４％、昨年の３６％から改善した。１年生が受験するファッションビジネス能力検定３級は合格率５７％、昨年４３％から若干改善。２年生の２級は合格率４６％、昨年２０％と大幅に改善。同様に低迷している。色彩技能パーソナルカラー検定モジュール１の合格率は６７％、モジュール２は１００％と高い合格率を確保した。産学協同プロジェクトでは、レディスアパレルメーカー株式会ピーアンドエムと“レディスアパレルのサスティナブルな取り組み”と“ノベルティグッズ提案”の課題に対して、実践形式でリサーチ、検討し９月９日に提案書をプレゼンテ

ーションした。お客様の衣料品や社員の制服の回収、再利用の方法など提案。また、回収した衣料品をトートバックなどにリメイクしてノベルティとして活用するなどアイデアを提案した。現在制服を回収してフリーマーケットで再販し、売上金を寄付する試みが検討されている。

基準4. 学修成果に関してご意見をお聞かせください。

※各種検定受験対応に努力がみられる。これらの検定は日本語で行われている。従って留学生の合格率に関しても少なからず、語学力も影響しているものと推測する。留学生は元より対応いただいている教職員におかれては、一方ならぬご苦労があらうかと思われるが、検定試験のそのものへの対応は元より、語学力アップを図る施策の維持・強化を推進すべきである。

※学習成果の可視化という点では、各種資格の取得は一定の役割を果たしていますが、取得した資格が就職活動時や就職後の待遇向上にどう繋がっているのかは不明なままです。過去の取得者と非取得者との就職実績(ファッションの場合どの企業やブランドなのかも重要要素)や就職後の待遇差などの情報開示も不可欠なように思われる。

基準5. 学生支援

現状1年生の60%(昨年32%)が奨学金や就学支援制度を必要としている。就学支援新制度に関しては1年生の12名、23%が支援を受けている。年々増加している就学支援新制度に関しては、学園としては認定基準をクリアーして継続して高等教育の就学支援新制度の認定校となり、金銭面での学生の支援体制を充実させることが出来た。また、就職支援に関してもオンライン形式の説明会や面接は学校の施設を開放し、個別対応の面接指導、エントリーシート、履歴書添削などをきめ細かく行い活動の支援を行った。就職決定率は、技術科はアルバイト採用を含め100%(昨年88%)、ファッションクリエイト科、ファッションビジネス科はアルバイト採用を含め84%(昨年100%)、デジタル専門課程の学生は、経営・管理ビザ取得の手続きに入り、母国モンゴルとの貿易の事業を開始する計画で進んでいる。

基準5. 学生支援に関してご意見をお聞かせください。

※家庭の経済状況の二極化が著しく進んでいる昨今。家庭環境も教育機会の大きな課題となっていると思われる。これらのへの対応として、就学支援制度を継続して進めてくださる桜丘学園のサポート体制には感化されるものがある。是非 今後もこれらのサポートの継続をお願いする。

※特に優秀な学生の授業料免除などの特待生制度の設立はできないか。成績での差別化は勉強へのモチベーション向上や、授業態度の向上に役立つ。

基準6. 教育環境

パソコンの導入率を引き上げ、どの授業でもパソコンを使用できる体制を整えた。また、新入生全員がillustrator、Photoshopが使用出来る体制を整えた。Windowsのサポート終了に伴い次年度はパソコンの入れ替えの計画を進めている。マシン等の作品製作に必要な機器も増員分を全て購入した。学生数の増加に伴い作業スペース

的に問題を生じたが今後は課題の解消に向けて対策を講じたい。また、次年度は衛生環境の改善の為、校内改修工事を計画している。

基準 6. 教育環境に関してご意見をお聞かせください。

※生徒の増加は嬉しい事だが、それに伴い、パソコンや作品作成の為のツールなど他種にわたる設備が必要となる、これらへの対応（投資）もしっかりと対処して頂いているとのこと。作業スペースの問題は対策を検討することだが、生徒の満足度向上の為にも、早急にしっかりとした対策実行を実行すべき。

※今後は生成 AI の活用を通じ、作品制作や企画立案などの効率化、レベルアップを図っていくべきかと思う。今や業界のプロも、AI の活用が必須の時代。社会の流れに置いて行かれないようにハード・ソフト共にバージョンアップが必要だと思われる。

基準 7. 学生の募集と受入れ

ファッション専門課程ファッションクリエイト科はアイドルプロデュース衣装製作のカリキュラムの人気の継続し、若干定員を超え数名の選考で不合格者を出した。ファッションビジネス科は出願者が伸び悩み改善の兆しが見えなかった。デジタル専門課程の 1 年生は日本語レベルが低いものの 1 名も退学者を出さなかった。出願状況も 150 人を超える出願があり安定的に新入生を確保できた。

基準 7. 学生の募集と受入れに関してご意見をお聞かせください。

※ファッションビジネス科の生徒数が伸び悩みとの事、他校での状況も同じようなものなのか、又は就職の際などに於いて、メリットが少なく生徒の関心などが薄いのか。改善の余地があるのか、生徒たちの動向が変わらないのであれば、この学科の縮小も選択肢として考慮する必要があるのか見極めが肝要。ファッションクリエイト科、デジタル専門課は素晴らしい実績である。

※アイドルプロデュース衣装製作の人気を、就職活動に結び付けるのが今後の課題。学生の生活の充実は必要条件だが、必要十分となるのは希望通りの就職ができ、就職後も働き甲斐のある職場で自身の能力を発揮し、高評価を得ることが必須。またその卒業後の状況についての情報提供が、次年の入学希望者の増加につながる。

基準 8. 財務

今期は米国内の堅調な景気と AI 投資による米国株の好調な推移により想定以上のキャピタルゲインを得た。今後は学生数の増加に伴い、教育事業単体での黒字化が視野に入ってきた為、保有金融資産においてはよりリスクを抑えた、安定資産への資金シフトを進めたい。日本株式のウエイトを下げ、社債を含めオルタナティブ投資のウエイトを上げ、利息や配当による安定収益確保に方針転換を図る。

基準 8. 財務に関してご意見をお聞かせください。

※学園運営の事業基盤は生徒の確保・維持・拡大が本道と推察いたします。この点に於いては努力が軌道にしっかりとっており、定員充足も視野に入ってきている。資産運用

も事業継続・安定経営に欠かせぬ手段であるので、今後も安定した収益基盤の確保が出来るよう努めて頂きたい。

基準 9. 法令等の遵守

継続して、文部科学省、東京都、千代田区からの通達や情報は、定例の役員会議、教職員全体会議、教員会議の場で常に情報は共有されている。また、日常では A l r i t C l o u d を活用して迅速に情報を共有するシステムを活用している。学生に対しては金融経済教育を実施し、金融トラブル、カードトラブル、フィッシング詐欺、闇バイトなどに巻き込まれたり、関わらない様に事前に情報提供を行い注意喚起している。

基準 9. 法令等の遵守に関してご意見をお聞かせください。

※教職員の間の情報共有は元より、昨今の社会情勢を鑑みると生徒たちへの各種トラブルに対する啓蒙は必須課題である。個人情報との兼ね合いもあり難しい点もあるかと思うが、これらトラブルでの被害者は勿論 加害者も一人も出さぬようご尽力して頂きたい。

基準 10. 社会貢献・地域貢献

毎年、6月には千代田区の生活環境の整備に関する条例に基づき、毎年6月と11月に実施されている千代田区一斉清掃に参加している。学校周辺を清掃することにより、たばこの吸い殻などポイ捨てなど学生のマナーに対する意識付けに役立てるとともに、当日をドレスコード登校日に指定して、スクールカラーのピンクの服装で清掃活動を行うことで近隣住民や通勤、通学で区内を訪れる方々に環境美化に対する啓発活動を行っている。また、継続して行っているアイドルグループの衣装製作では、再生繊維や残反などを使用して製作し、学生に対してSDGsに関する理解を深めている。

基準 10. 社会貢献・地域貢献に関してご意見をお聞かせください。

※千代田区生活環境整備への対応は重要である。清掃活動を通し、地域住民・通勤・通学の方々への啓蒙活動を実施。これらを通し、生徒たちにも大きな啓蒙活動となる。衣装製作など実践の場でのSDGs活動は生徒たちにとって大きな財産となる。

※地域活動への参加の一環として、町会行事への積極的な参加をしたらどうでしょうか。定期的な学校と町会執行部とのミーティングで種々の情報交換を行い、各行事の手伝いや学校施設の提供などを通じて地域貢献への足掛かりにしたらどうか。例)祭礼、運動会、バザー近隣住民の方への学校開放や授業参観などのイベント等も効果的。